

## 児童養護施設(ベトレヘム学園)の運営

### 【定員】

定員57名(本園45名、地域小規模12名) 令和2年4月～令和3年3月

### 【年間利用状況】(月初在籍人員)＜地域小規模＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
未就学	7	7	7	7	7	6	7	7	8	8	8	8	87
小学生	12 <6>	12 <6>	12 <6>	12 <6>	12 <6>	11 <6>	11 <6>	11 <6>	11 <6>	11 <6>	10 <6>	10 <6>	135 <72>
中学生	5 <5>	5 <5>	4 <5>	50 <60>									
高校生	9 <1>	9 <1>	10 <1>	9 <1>	9 <1>	116 <12>							
措置延長	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止						1	1				2	2	6
合計	34 <12>	34 <12>	33 <12>	33 <12>	33 <12>	31 <12>	32 <12>	32 <12>	33 <12>	33 <12>	33 <12>	33 <12>	394 <144>

### 【施設運営状況】

- ・新型コロナウイルスの影響で、4月5月は小中高等学校が休校となり、子どもたちは落ち着かず、逸脱行動や夜間徘徊等で警察対応を依頼することも発生し、事故報告が多発する結果となった。
- ・新型コロナウイルスの影響で職員ディスカッションや食事会等職員同士のコミュニケーションを図る機会が激減し、今後どのようにコミュニケーションを取って行くかが課題となった。

### 【利用者支援状況】

- ・子どもの希望を叶える取り組みに関しては、自立支援計画書作成時の聞き取りシート等を活用することを職員に浸透させた。日常的に傾聴することは、次年度も課題とする。
- ・子どもの意見を聞く場としての子ども自治会は、対象を満足度が比較的低い小学校高学年とした(任意参加)。やりたいこと等意見が活発に出てきたが、新型コロナウイルスの状況を鑑みて、実施は翌年度に持ち越しとなった。
- ・挨拶や社会性を身につけるは、新型コロナウイルスの影響で外出やスポーツ大会等も軒並み中止となってしまうことで、指導の機会が日常的なものに限られ十分ではなかった。

- ・入所 4名
- ・退所 <家庭復帰> 4名  
<措置変更> 1名  
<自立> 2名

### 【地域との連携】

- ・白梅自治会と共催の行事は、新型コロナウイルスの影響で全て中止となった。
- ・地域交流ホールの貸し出しは、同様の理由で中止となった。
- ・清瀬市社会福祉法人でつくる地域貢献ネットワークに参加は継続したが、対面での会議は行われず、書式開催のみであった。
- ・子育て支援に関する地域貢献は、ナザレットの家と一緒に情報収集を行い開催まであと1歩であったが、新型コロナウイルスの影響で進めることが出来なかった。

### 【職員の質の向上】

- ・新任研修に関しては、オンラインや規模を縮小した形で、法人や外部研修に参加する機会があったが、じっくりと育成することが難しかった。
- ・中堅職員以上は、外部研修の機会が無かったが、リーダー以上の職員は外部スーパーバイザーと1対1のスーパーバイズを年2回行うことで補った。
- ・三多摩地区の3施設と合同のリーダーシップ研修は、オンラインで実施時期をずらして行われたが、内容はほぼ昨年と同様であった。各施設を訪問したり、直接顔を合わせて実施出来なかったのは残念であったが、少人数でのディスカッションや成果物としての発表も行い、職員会議でも発表の時間を設けて行うことが出来たことは良かった。
- ・昨年度の例を考慮し、中間総括として秋にも施設長との面接を行い、次年度の意向確認も併せて行った。

【施設・設備整備】

(単位:千円)

工 事		備品購入等	
件 名	金 額	件 名	金 額
		車	2,719
		コピー機	880
		顔認証温度感知システム	293
		児童養護施設総合管理システム	2,403

注:工事は1件100万円以上、物品購入等は1件10万